

1. 海洋生物飼育試験1月時点での報告（1 / 3）

海洋生物の飼育状況

- ヒラメについて、1/16に、系列4水槽（海水で希釈したALPS処理水）で1匹のへい死を確認した。
なお、1/17日以降は、へい死、異常等は確認されていない(1/23時点)。
- アワビについて、本試験を開始した10/25以降「通常海水」で13個、「海水で希釈したALPS処理水」で29個のへい死が確認された(1/23時点)。
 - アワビが死んだ要因について、専門家によると、内臓が膨張していないことや外套膜の一部が破損していた事から病気でなく、提供先からの輸送時や日々の清掃作業時についた外傷が原因と判断。
 - なお、アワビの外傷発生の原因として、アワビの生育密度の高さや水槽清掃時の接触等が考えられることから、それらの改善を図っているところ。

ヒラメ導入時の計測値：体重 $36\pm 12\text{g}$ 全長 $15.9\pm 1.8\text{cm}$

アワビ導入時の計測値：体重 $27\pm 4\text{g}$ 殻長 $5.8\pm 0.3\text{cm}$

| 水槽系列 | 分類 | 各水槽の海洋生物類の数 (2023年1月23日現在) | | |
|------|--------------------------|----------------------------|--------|----|
| | | ヒラメ(尾) | アワビ(個) | 海藻 |
| 系列1 | 通常海水 (0.1~1 Bq/L程度) | 130 | 150 | - |
| 系列2 | 通常海水 (0.1~1 Bq/L程度) | 143 | 147 | - |
| 系列3 | 1500Bq/L未満 ^{※1} | 180 | 176 | - |
| 系列4 | 1500Bq/L未満 ^{※1} | 178 | 187 | - |
| 系列5 | 30Bq/L程度 ^{※2} | 27 | - | - |

※1 12月末時点の測定値：約1250Bq/L（前回の測定値から大きな変化なし）

※2 12月末時点の測定値：約37Bq/L（前回の測定値から大きな変化なし）

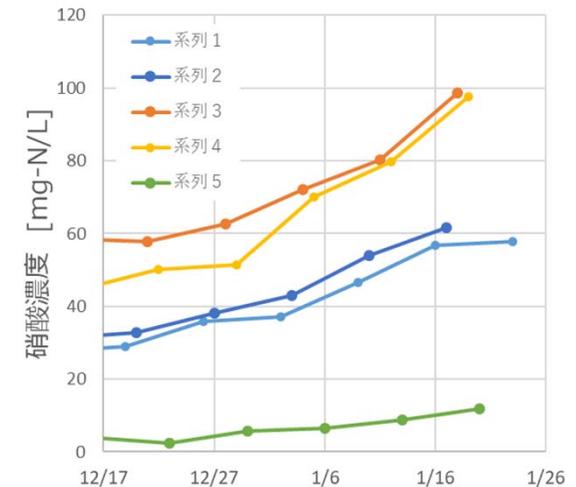
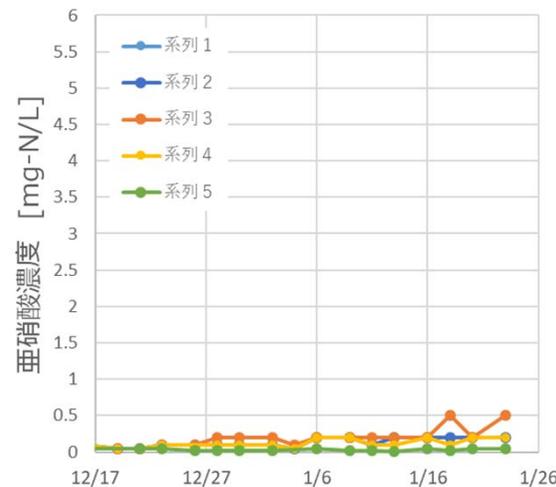
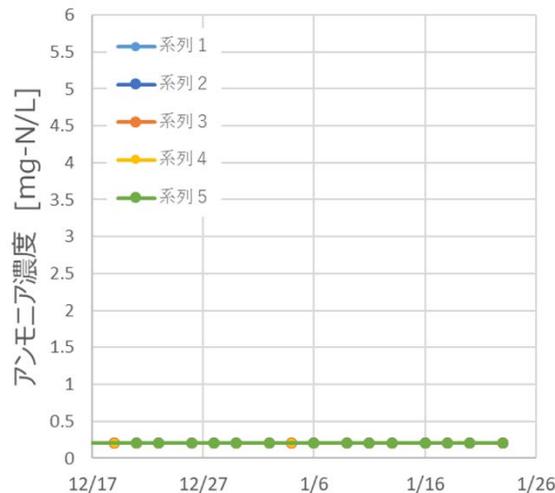
1. 海洋生物飼育試験1月時点での報告（2 / 3）



飼育水槽の水質の状況

- 水質データに若干の変動があったが、概ね海洋生物の飼育に適した範囲で水質をコントロールすることができている。

| 水質項目 | 系列 1～5 の最小値～最大値 (2022/12/17～2023/1/23) | 測定値に関する補足説明 |
|----------------|---|---|
| 水温 (°C) | 17.0～18.3 | 設定水温18.0°C付近に制御 |
| アンモニア (mg-N/L) | 0.2 | 概ね多くの海生生物に対して影響を及ぼさない0.5mg-N/L以下に維持 |
| 亜硝酸 (mg-N/L) | 0.010～0.500 | 多くの海生生物に対して影響を及ぼさない0.5mg-N/L以下に維持 |
| 硝酸 (mg-N/L) | 2～99 | 系列1～4が漸増傾向に転じたことから、1/11に脱窒菌の栄養となる炭素源を追加 |



1. 海洋生物飼育試験1月時点での報告（3 / 3）

今後の飼育予定

- 海藻：飼育開始時期については、決まり次第、別途お知らせします。

今後の予定

- 2022年10～11月に実施した希釈したALPS処理水（1500Bq/L未満）で飼育したアワビのトリチウム濃度の測定
- 2022年11～12月に実施した希釈したALPS処理水（30Bq/L程度）で飼育したヒラメのトリチウム濃度の測定【追加的な飼育試験】